

## 宜野湾高校の生徒達へ（58）

2020.11.20

11月14日に、宜野湾高等学校創立40周年記念講演・式典が開催された。

記念講演は、知念臣吾さん（本校20期生）が「高校から考える人生～可能性の選択～」の演題で行われた。生徒の感想をいくつか紹介しよう。



◎何事にも**可能性や希望を見出すことを忘れなければ、将来の自分に繋がっていくし、「もしかしたら」**ということがおこると思う。自分に何かに迷ったり、壁にぶつかったときには先を見続けるだけではなく、ふりかえって、**本当に自分がやりたいことや気持ちのいいことを見直すことも大切**にしていきたい。

◎**可能性がゼロに近い**としても、完全にゼロではない限り、**その可能性を信じて**日々の生活を過ごしていくことで、**つまらない日常も少しは楽しくなるんじゃないか**と思いました。

◎知念さんの話を聞いて「自分が気持ちいい」と思うことをやっていけば、自然とどんなつまらないことだとしても楽しくできる。**楽しいか楽しくないかは自分次第なんだ**と思いました。

★今日の講演を受けて一番印象を受けた言葉は**自分のやりたいことをやるだけが正解じゃない**ということです。自分は今までやりたいことをやるのが全てだと思っていたので、知念臣吾さんが言っていた言葉は衝撃でした。今の自分の夢を実現するためにいろいろなことに挑戦し、少しでも可能性を出せるようにして**自分が一番気持ちいいと思えることを探していこう**と思います。今日の講演をきっかけに**今後の自分の行動を改め、気をひきしめていきます。**

★**考え方を変えることで、人も良い方向に変わっていく**と思ったし、いろいろな可能性が増えていくと思いました。**1つでも気持ちいいことを見つけて、それをまた、悩んでいる人たちに知念さんから聞いた話を教えてあげて、みんなが楽しい人生を送れるような沖縄にしていきたい！**

★**考え方でポジティブになることができる大人になりたい。**学生時代に培ったものを大人になって発揮できる。だから学生時代にやってきたことは無駄じゃない。**可能性を信じて生きてみれば楽しいことはない。**

安仁屋聡 同窓会長（1期生）の挨拶の中で印象に残っている言葉は、

今だからこそ、人のつながりは重要なのです。… 人を知り、つながり、ともに悩み、解決していく。壁にぶつかったとき同じ学び舎で学んだ**先輩を頼って下さい。**… この連鎖が学校を強くし、さらに母校から多才な人材が輩出されるはずです。

桃原花女 前生徒会長の挨拶の中で印象に残っている言葉は、

今年40周年を迎え、宜野湾高校は新たに「未来に向けて、海外へ羽ばたく宜野湾高校を応援しようプロジェクト」を始めています。**沖縄から世界へと多様な人々とつながり会う**ことで一段と宜野湾高校と生徒たちの成長になると思います。

創立40周年記念事業の一つに**生徒海外派遣事業（シンガポール）**がある。コロナ禍がなければこの式典で、派遣された生徒の体験を発表してもらう予定だった。沖縄と同程度の大きさのシンガポールは英国の植民地から独立し、現在では金融・IT分野でアジアのみでなく世界のトップクラスの地位を築いている。同事業の目的は、このような歴史を持つシンガポールが国の担い手である若者の教育をどのように行っているか、同国の高校生がどのような意識で高校生活を送っているかを直に体験し、これからの沖縄を考えていく人材を宜野湾高校で育てることにある。

さて、『宜野湾高校の生徒達へ（47）』で主権者教育の重要性に触れたが、「**国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく**」ためには、沖縄が解決しなければならない問題は何かを自覚し、その解決方法を考える力が求められる。「**総合的な探究の時間**」では、皆さんの興味関心を身近な地域の課題やSDGsと関連づけてテーマを設定し、関係者への取材等を通してその解決を図っていく力の育成に取り組んでいる。そこで身につけた力が主権者としての力の育成に繋がるのだ。

宜野湾高校の**新たな歴史の幕**が開けた。本校創立40周年を契機に宜野湾高校の新たな歴史を創り上げていく**主人公が君たち**であり、私たち教職員や保護者の皆さんが君たちを支える応援団だ。

今後、宜野湾高等学校がどのような発展を遂げていくか？ 退職後の楽しみとしよう！

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎